

令和5年度 浜松学院大学附属幼稚園 学校評価書

教育目標 「知恵と力を出し合って生き生きと遊べる子」

1 本年度の重点目標

- ・ 要支援児を含めた子ども全般の理解
- ・ 教育環境及び行事内容の見直し

2 学校評価結果

総合評価 B (A (十分に成果があった)、B (成果があった)、C (少しの成果があった)、D (成果がなかった))

評価項目	評価結果	具体的な取り組み及び改善策
保育の計画性 について	B	<ul style="list-style-type: none">・ 学年での話し合いを日常的に行い、保育計画及び内容理解に努めた。・ 学年を超えた話し合いも必要だが、多くの時間を取ることは難しかった。・ 子どもの成長の仕方や内容が変化している。時代も日々変化しており、何が必要なのかを見極めながら環境構成や行事内容を考えるようにした。・ 園児に合わせて行事のやり方を変えることができている。以前のやり方から変わっているところが多いと思うが、変えた事で園児も教員も取り組みやすくなっていると感じる。・ 現在の子どもに合わせたカリキュラムの見直しが必要だと感じる。

評価項目	評価結果	具体的な取り組み及び改善策
保育の実践力 環境設定 幼児への対応 について	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事に追われて教員と園児、園児同士が向き合う時間が足りないと感じる。じっくり向き合って育ち合うことで、園児のどこを援助したら良いか？どこが成長しているのか？がわかると思った。 ・ 園児の発達、家族環境、特性等々を考えながら その時々園児の思いや行動に寄り添いたい。 ・ 個々の園児に必要な援助を心掛けた。 ・ その子が困っていることは何か。それに対しての援助を自分だけでなく、他教員に相談しながらじっくり考えることができた。 ・ 楽しい事、嬉しい事、悲しい事など様々な気持ちを園児と共有することで、その子に対して寄り添い、理解することができるよう努めた。 ・ 自分が正しい援助をしているのか不安に感じることもある。
教師の能力 適性 良識 チーム意識 について	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児の気持ちを第一に考えて保育をするよう心がけた。 ・ 教員間のコミュニケーション、話し合いを各学年、各部、各ポジションで行いたい。少人数でざっくばらんに意見交換ができると良い。 ・ 学年の話し合いで意見は出るものの、その先の対応についてまで検討が及ばないこともある。学年の意見を全教員で話し合う必要がある場合は、学年から発信していきたい。
保護者への 対応について	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者と対面の際、お便り帳、電話等を利用して、子どもの様子を伝える機会を増やすように努めた。 ・ ブログから様子がわかり安心できたという意見をいただくことができよかった。 ・ 早期に預けたい、長時間預けたいという保護者のニーズが高まっている。就労者も増えてきている中で、幼稚園も満3歳前保育実施や預かり保育充実等、保護者の要望に合わせた対応が必要である。 ・ 長文を読むのが苦手な保護者が増えていると感じる。学級通信も写真が望まれていることを踏まえた作成方法の検討が必要である。

評価項目	評価結果	具体的な取り組み及び改善策
地域との連携 地域資源の 活用について	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要支援児について、専門機関関係者から様々な情報を得ることで、新たな知識を得る、自分の考えを見直す機会になった。知っているつもりでの支援にならないように知識を深めていく必要を感じた。 ・ 幼小接続に向けた連携活動ができると良いが、小学校低学年の卒園児参観とその懇談で終わっている。就学前園児の小学校訪問や幼小教員同士の保育・授業参観等ができると良いが、現状の教員の業務内容では難しい。
研修参加に ついて	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要支援児の割合が年々増えており、より適切な深い支援への理解が求められている。専門家の意見や指導を共有したり、発達支援の研修から学んだりしていきたい。 ・ 要支援児への配慮と同時に、園児全般への十分な配慮が足りていないのではと感じることがある。職員全員の共通理解の必要性を切に感じる。全教員が研修会や情報共有会に参加したい。 ・ 本年度行ったリフレクションシートを使っての研修で、自身の保育知識不足を感じた。知識を増やし、実践にも繋げていきたい。
保護者アンケートについて	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 好意的な意見がたくさんあり、嬉しいしありがたい。モチベーションにつながる。 ・ 改善希望等を正直に記載してくださることをありがたく真摯に受け止めたい。教職員全員の意見及び考えを反映できるよう、様々な形の会議形態で話し合っていくことが必要である。 ・ 子どもが喜んで園生活を送れていれば、保護者も安心して園に送り出せる。園児と教職員との信頼関係が、保護者の満足感に繋がっている。 ・ アンケートから知ることができたことを無駄にせず、園児、保護者、教職員、幼稚園で連携しながら迅速に対応したい。小さなことから心がけ、気付き合えるようにしていきたい。 ・ 『オープンな幼稚園』との希望があった。具体的にどんな事をするのがオープンな園なのかを具体的に考えたい。 ・ 『もっといろいろ経験させたい』と希望する保護者がいるが、もっともっと、と望むのではなく丁寧に深くじっくり経

評価項目	評価結果	具体的な取り組み及び改善策
		験させ。ることも必要だと思う。 ・幼稚園教育活動の目的及び意味や、子どもの学びと成長を丁寧に保護者に発信することが必要である。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

要支援児を含めた 子ども全般の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間的な余裕のあるたんぽぽ組のうちに生活面の自立の援助と園で楽しく過ごせるよう心掛けた。 ・ 一人ひとりアンバランスな部分の差が大きくその子にあった援助の仕方を工夫する必要性を感じた。 ・ 園児の個性を大切にして信頼関係を築いてきた。その子の良いところに着目することを心がけた。 ・ 気になる子が多数おり、その子に寄り添った丁寧な対応を心掛けてきたが、なかなか難しかった。 ・ 自分が正しい援助をしているのか不安に感じることもあり、努力不足と感じるところもある。 ・ 活動や行事に追われ、一人ひとりに寄り添えなかったと感じることもあった。また、自分自身の子どもの対応や発達についての学びも充分ではなかったと思う。 ・ 子どもが安心、かつ安全に過ごせるように視野をもっと広げていきたい ・ 園児に合わせた援助について、もっと深い知識が得られるようこれから勉強したい。
教育環境及び 行事内容の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児に合わせて行事のやり方を変えたことで、園児も教員も取り組みやすくなっていると感じる。 ・ 行事及び日常保育について、全教員の中で共有できているところと、そうでないところがある。教育保育に関して、様々な考えがある中で、自園の教育理念を踏まえた教育内容を全教員が共通理解するように努めたい。 ・ 保育者と子ども、子ども同士がじっくり向き合う時間を確保したい。行事の中でも、それができるような内容を考えていくことが必要である。 ・ 行事の保護者観覧方法について、コロナ禍前に戻すか否か、教員の中でも意見が分かれている。子どもの姿を第一

	<p>に捉え、今後も検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事内容の小さな見直しはその都度行うが、時代の流れや私たちが大事にしたいものをあらためて整理して 考えたい。保護者の要望に耳を傾けることも必要だが、子どもを主体に考えることはこれまで通り大切にしたい。コロナ以降かわった部分もある。見直すべきこと、そのまま続けたいもの、大事にしたいもの、を職員が共通理解し見直したい。保護者への発信も大切だと思う。
--	--

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園児確保について	<ul style="list-style-type: none"> ・時代に合った園情報発信として、ブログ・Instagram・ドキュメンテーション等、画像を適切に利用する。 ・未就園児活動内容を再検討する。周知の仕方及び参加児の年齢に合わせた活動内容をあらためて検討し、未就園児保護者へアピールする。
教職員間のコミュニケーションについて	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、担当部、ポジションで話し合い時間を確保する。少人数でざっくばらんに意見交換をする時間を確保し、情報共有と共通理解を深める。 ・勤務形態の違っても意思疎通を図ることができる体制をつくる。
園内研修・外部研修について	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援児への対応方法は職員間で共有し、全員で考えていきたい。担任や加配教員だけでなく他の教員も支援方法を共有するための園内研修を実施する。 ・自らの課題を見極めて外部研修を選択し、参加する。

保護者アンケート総合結果 回収率98% (回答数220/224)

■はい ■大体あてはまる ■あまりあてはまらない ■いいえ

